

東大

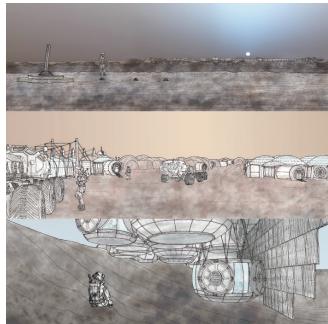
剥き出シノ生ー軟禁都市



何 競飛

権力がアーキテクチャーに対して働く時、そこに潜む恐怖を暴き出す。国家主義的な国家が、表面上は、検閲も行われず政治犯もいない民主主義的自由を謳歌しつつ、その実態は、思想統制し、異端者を排除するシステムを持つ。ある本を探しに行ったりした学生が知らずのうちに選別され軟禁されてしまうというような物語を用意し、物語の展開に沿って三つの建築が立ち上がっていく。日常的な行為、光景の中に潜んでる見えない建築空間の暴力性が、ある日政治的な恐怖に変わるという不気味さが、ここで立ち現れてくる。

Eclosion: the Martian Vernacular



五十嵐 宇晴

「火星に行く」という課題を乗り越えた人類は、「火星に留まる」という課題と向き合う。人間がこの地に最初の常設基地を設営してから、初めて旅行客が訪れるようになるまでを6段階に分け、その変遷を辿る。研究のための前哨基地はやがて機能を分化・増殖させていき、少しづつ「村落」的な存在へと姿を変えていく。赤く不毛の大地に浮かび上がってくるのは、人間の活動領域の臨界面で営まれる、人々の暮らしの物語である。

うごめく都市の中で

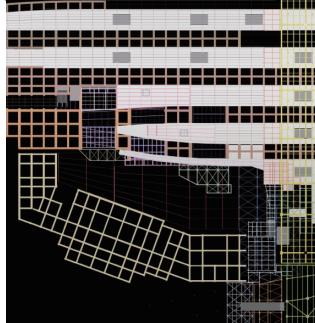


岡本 圭介

成熟都市におけるコミュニティの重心は私的空間に引き寄せられ、都市空間は人のうごめきのみが残余する単調な風景を生み出している。消費文化都市として発展した背景にあるかつての路上文化の舞台性を引き継ぎ、20年に及ぶ再開発による渋谷の中心の更新過程にストリートカルチャーの祝祭を仮設的に挿入して立ち上がる建築は、交通インフラの空間的分断のみならず再開発による時間軸やスケールの分断をつなぐアイコンとなる。

藝大

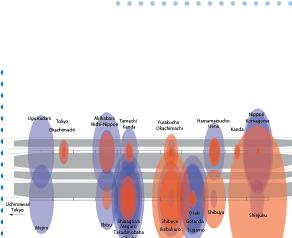
上野駅コレオグラフ



as it is



LogisticStation



荒木 遼

長い間大規模な改築が行われていない上野駅は、常に使われながら少しづつ更新され、様々な時代の構造体がパッチワークとなっている。時間軸上で複数の計画が重なった結果、現在の上野駅には駅の機能からは外れてしまう隙間が多く存在し、同時に駅という機能を超えて別の機能を持ちうる可能性を秘めている。このような空間を駅として機能させている案内表示板や改札機といった小さな要素に混じり、劇場の機能を持たせる要素を新たに忍び込ませる。

東工大

UNCERTAIN CONSTRUCTION

柵測 開



下北沢には、互いに交わること無く、独自のスケールや時間軸で発展してきた演劇、音楽などの大きな活動が存在している。また、街に目を向けると、路地裏で演劇の練習をする、植込みに腰を下ろして人を待つ、店先の屏に商品を掛ける、といった空間を自由に読み替えて使う小さな活動がみられる。この建築は、大きな活動を支える統制された領域と、小さな活動を誘発する自由な領域を作り出し、下北沢の多様な活動が連続する風景を生み出す。

無常の群情

篠原 柏



「高い」だけのマンションはもう古い。資本としてではなく、日本という土地に「住む場所」としてマンションを再考して初めて、新たな魅力と価値を持つ高層集合住宅が生まれる。そこで、近代以前の日本住宅が持つ、雨・風・光といった外部環境との連続性を、高層住宅の垂直性と掛け合わせる事で、新しい空間を生み出す。高密度により内部と外部が切り離された都心部において、日本の風土に合った自然と住宅の関係を取り戻す。

Activity Note

前田 雄太郎



神保町は、文学、音楽、スポーツなど、様々な顔を持つが、それぞれが密集しているがらも互いに連携することは少なく、街全体での活動は乏しい。この街の中心に、「多様な活動の受け皿」としての屋外広場と、「街を体験する場」として3つの公共建築を提案する。ここで行われる活動は、周囲の環境を巻き込みつつ広場を介して互いに結びつき、この街の多彩な活動の結節点となる。